

講義名	対)19～職業指導/15～職業指導			
担当教員	川合 宏之			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

職業指導とは職業に就こうとする生徒に対して、職業選択や職業適性に関する支援を行う教育活動である。しかし、それは、単に就職指導・進学指導に限定されるものではなく、それぞれの生徒の自己実現に向けて、人間としてのあり方や生き方を考えさせるものでなければならない。このために、高等学校における教育活動全体を通して、計画的・組織的・系統的に指導する必要がある。本授業では、職業指導の沿革を理解するとともに、主体的に職業を選択する能力を培い、望ましい職業観、勤労観を育成するための今日的な諸課題について、学校における職業指導のあり方を踏まえて、理論と実践の両面から検討する。

到達目標

専門高校の教員として、生徒のよりよい社会的自己実現に向けて、人間としてのあり方、生き方を探求する職業指導について、高等学校における教育活動の全体を通して、組織的計画的に推進するために必要とされる一般的知識を深め、具体的な技能について活用できるようになる。

提出課題

授業時に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

- ・演習・課題レポートについては、評価し授業の中で返却するとともに、要点や根拠解答について解説する。
- ・返却しないものについても授業の中で模範解答の解説と講評を行う。

評価の基準

演習・課題レポート（60%）、毎時の授業への参加度・積極性（40%）により総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は、教職課程の高一種（商業）免許の教科に関する科目「職業指導」の必修科目である。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

「高等学校キャリア教育の手引き」（文部科学省）
 梅澤正憲『職業とキャリア：人生の豊かさは』（学文社）
 中野理恵『学校から職場への道：若年者雇用保障と職業教育・訓練』（専修大学出版局）
 他、必要に応じて授業で紹介する。

授業計画

第1回：職業指導の意義と目的
 第2回：職業指導の沿革（アメリカ）
 第3回：職業指導の沿革（日本）
 第4回：職業指導の基礎理論（職業選択理論）
 第5回：職業指導の基礎理論（職業適応理論・発達理論）
 第6回：産業社会構造・雇用意識の変化と職業指導（モラトリアム化社会の問題点）
 第7回：産業社会構造・雇用意識の変化と職業指導（フリーター・ニートの問題点）
 第8回：進路決定と適応についての今日的課題（勤労観、職業観と高校生の離職の問題点・中退生の問題点）
 第9回：職業指導と法制度
 第10回：職業指導と教育課程
 第11回：職業保護
 第12回：職業指導の実務
 第13回：職業観の形成
 第14回：課外活動の職業指導
 第15回：職業指導の計画

（注）項目や順序を入れ替えることがある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

今回の授業内容を確認し、予習としてその範囲の専門用語の意味を調べ理解しておくこと。（約1.5時間）
 授業後にノートや教科書等で確認し、授業中の発言課題を仕上げて提出する。（約2.0時間）
 授業において、指示されたテーマで2～3回の課題レポートを課す。（約0.5時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、学校における職業指導のあり方を踏まえて、理論と実践の両面から検討することによって、本学の教育の目標である「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成する。さらに、生徒の職業意識を高めるための職業指導についての実践的素養を身に付けることができる。
 また、本科目は、マーケティング学科のディプロマ・ポリシーに関連しており、マーケティング動向、流通業界及び関連業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけておくことは、商業科教員として必要な要素である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

大規模多人数同時参加型オンラインアンケートアプリを用いて理解度をチェックし、次回以降の授業の参考にする。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
 高等学校教諭の経験を活かし、学校現場での事例や実務上の留意点などを盛り交えた講義を行う。

備考

本講義は原則対面で行いますが、通学困難者向けに別途オンライン講義対応を行う。オンライン授業については、動画等で配信することが原則である。詳細は講義連絡を確認すること。
 なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスが修正される可能性がある。